



立志 鍛錬 協調

平成29年5月18日号

立三申

立川市立立川第三中学校

Tachikawa Daisan J.H.School

だより

地域と連携した防災教育

校長 山口真一

5月も半ばを過ぎましたが、各学年とも授業や行事、部活動に真剣に取り組み、とてもいいスタートができました。これからは、修学旅行や体育大会など大きな行事が続きます。

本校の教育活動を支えている一つに、立川市民科としての防災教育があります。地域の合同防災訓練に参加し、「三中防災安全マップ」を作成するなど、様々な活動に取り組んでいます。地域の方々と連携する機会を増やすことによって、生徒のコミュニケーション力が養われ、社会に貢献できる力を伸ばすことができます。

現在、東京においては、M7級の首都直下型地震が30年以内に70%の確率で起きると想定されています。このような大災害では「備え」と「構え」が大切です。

「備え」とは災害を想定しての日常的な準備です。例えば学校では大地震に備えて、耐震補強工事を行って安全性を向上させています。建築基準法によれば、

「震度5までの地震では建物に損傷が発生しない」

「震度6～7では建物に部分的な損傷は生じるものの、倒壊などの大きな損傷を防ぎ、人命が失われないようにする」

となることを想定しています。これ以外にも備蓄倉庫を設置するなど、避難所としての準備もしています。家庭でも、「家具の転倒防止対策をする」「非常用持ち出し袋を用意する」「避難経路を確保する」等の備えがあると思います。一つひとつの小さな備えが自分を守る盾となります。

「構え」とは日常における災害への心構えです。地震などの自然災害はいつどこで発生するか予想ができません。今ここで地震（災害）が起きたらどう行動するか、これを常に頭の隅に置いて生活することが大切です。学校や家庭、旅行先の旅館、電車の中など様々な場所で身の守り方や避難の方法を考えておくだけで生存率が上がります。また国内外の災害ニュースに注意して危機意識を高め、防災についての知識を得ることも大切です。学校ではこの「構え」を養うこともあって、定期的に避難訓練や安全指導を行っています。

大災害では自分の命を守ることが最優先です。自分の命が守れてこそ、人の役に立つことができます。災害は今日にも起こるかもしれません。「備え」と「構え」を意識して、日々の安全をより高めていきます。

小中連携あいさつ運動

4月24日、三中校区4ヶ所で三小、六小、七小と連携したあいさつ運動を実施しました。当日は朝早くから、保護者や地域の方々にもご協力いただき充実した活動となりました。生徒会役員も各小学校の運動に参加し、交流を深めました。こうした活動が、元気に挨拶できる三中生を育てています。ご協力ありがとうございました。

小中連携教育活動

三中校区では「自ら進んで学び、規範意識を高く持ち、互いを認め合う児童・生徒」を目指す生徒像として9年間を見通した教育を推進しています。4月26日には六小で公開授業と9分科会での協議が行われました。学習や生活面など各分野で系統的な指導を目指していきます。



学校支援地域本部事業

立川市は、「学校・家庭・地域の連携による地域力の向上」を基本方針の1つに掲げています。学校地域支援本部は、学校と地域がともに子どもを育て、共に地域を創っていく基盤として、地域の皆さんと一緒に学校の教育活動を支援するための事業です。この事業を推進するために、学校支援活動の調整役としてのコーディネーターを次の方々をお願いいたしました。今後、地域の皆様や校区の小学校とも連携しながら活動を進めてまいります。どうぞよろしくをお願いいたします。

【学校支援コーディネーター】

市川敏夫 様、須崎信行 様、志村広一郎 様、柳原真紀子 様、宮嶋見津穂 様

離任式

5月2日、3人の先生が出席されて離任式を実施しました。先生方への感謝の気持ちが、生徒の言葉や歌声に表れ、感動的な式となりました。先生方が築かれた財産を大切にして、三中がますます発展できるように努力していきます。



第1学年 飯ごう炊さん

5月12日、あきる野市の伊奈キャンプ村にて実施しました。当日は天候にも恵まれ班ごとに協力して、充実した校外学習となりました。各班とも工夫を凝らしたメニューを用意し、調理に苦労しながらもおいしい食事を楽しむことができました。今回は立川駅からの班行動ということもあり、この活動を通して、協力し合う心を養えたと思います。最後はキャンプ場を使う前よりきれいに、帰路につきました。

